

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町岳陽高等学校

## 大町岳陽高校元年

前々からお伝えしていたように、3月31日で大町高校と大町北高校が閉校。4月1日から両校が統合して、新たに大町岳陽高校が発足した。一斉統合という形式をとることで、形の上で旧校の2、3年生も転校したということで、大町岳陽高校が3学年そろっての新たなスタートとなった。職員である私も転勤となった。

それを受けて旧大町高校山岳部と旧大町北高の山岳部も統合して一つになり、2、3年生だけで14名（クライミングのみの生徒3名を含む）の大所帯になった。善は急げ、その一発目の合宿を4月1日、2日の両日行った。参加者は旧北高生2名、旧大町高生7名の9名（うち男子6名、女子3名）。生徒たちも入学した時からこの統合は織り込み済みだったので、1年の時からそれを意識して活動してきている。加えて旧両校の部長が同じ小谷中学の出身ということもあり、融合は極めて順調だった。

1日、8:00に学校に集合。乗鞍高原スキー場に向かう。途中には全く雪がない。実は小生3月11、12日の両日にも乗鞍へ登っている。すでにその時でも、例年の4月上旬くらいの積雪量で、スキー場上部には普段は現れていないブッシュが顔を出しているのを見ている。その後の暖かさで融雪はさらに進み、ゲレンデ下部はようやく雪をつなげる程度しか雪は残っておらず、スキー場の営業も3日で終了ということであった。今回は年度替わりで山岳部の顧問の変更があったり、開校の記念式典があったりで、引率は僕とコーチを頼んでいる松田大さんの二人だけ。しかし松田さんがいれば安心だ。我々と小谷村の部長2人の4人が山スキーで、残りはつぼ足部隊での山行である。

雲一つない快晴の空の下、山シャツ1枚でも汗ばむほどの陽気だ。池工時代からここ4年続けて乗鞍に来ているが、過去3年間は位ヶ原から上部の強風で、生徒との山行では、てっぺんを窮めてはいない。昨年のが頭にある部長のYが、明日は少し天候の崩れが予想されているのを見越してか、「今年は頂上に行きたいですね。」と空を眺めて言う。今日は雪煙も上がっておらず絶好の登頂日和である。しかし、ゲレンデトップに立ったのは11:30。この時間から今日は上まで登るのは無理だ。平日とあって今日は登る人もほとんどない。ゆっくりと腹捲えをして歩き出す。およそ1時間半、定宿としていた位ヶ原下部を幕営地と定めた。今回はテントを持参していないので、早速雪洞を掘らせた。しかし、いかんせん雪が少なく、ずいぶん往生した。そこで女子隊にはイグルーを作らせたが、大きくし過ぎて天井があがらず失敗。男子も1隊はブッシュに阻まれ、場所を移動……。そんなこんなで予想外に宿づくりに手間取ったが、4時半、何とか11名が一夜過ごせる宿が完成した。今宵のメニューは豚骨生姜鍋とごはん。生姜がほどよく利いて身体も温まった。

翌日、予想に反して空には一片の雲もない。よし行くぞ。雪もしまっているのので、スノーシューはデポし、予定より10分遅れの6時40分に幕営地をあとにする。



いつもは強風が吹いている位ヶ原に出ても今日は無風。生徒たちは意気軒昂。途中夏の大雪渓バス停となるトイレ付近で一本取って、アイゼンを装着。幕営地を出発してから、わずか1時間半で肩の小屋まで登り上げた。スキー部隊もここからは、ピッケルとアイゼンの世界。8:30 テカテカに光る斜面を頂上に向かう。アイゼンが利いて心地よい登攀だ。松本平は雲海の下。9:40 山頂に到着。北アルプスにはややガスがかかっていたが、御嶽はくっきりと見え、青空がまぶしい。太陽に照らされ風もなく穏やかな乗鞍岳は、まさに「岳陽」高校を迎えるにふさわしい姿であった。できたてほやほやの新校の名のままに迎え入れてくれた。山頂でおよそ30分、至福の時を過ごした。

そうは言っても、3000mの独立峰である。この1年間あるいは2年間の生徒たちの成長は、目覚ましいものがある。2年生とは言ってもまだ山経験は2年、まして1年生は今年の今頃は山の「や」の字も知らず、始めて行った5月の針ノ木雪渓での山岳センターの研修会では、足元不如意であった。そんな彼らが、今は雪上でのアイゼン歩行も板について様になっている。経験が彼らを強くしている。雪洞に泊まり、雪の3000mの峰に登るなど、彼らの誰一人として入学した時には思っていなかったに違いない。段階を踏んでこそその成果だ。



下山する前に恒例の山岳部歌を歌う。歌詞の一節に、大町高校がかつて大町南高校という名称であったことに由来する「南高健児」という部分がある。そこを「岳陽健児」と変えて、旧北高の生徒も一緒に歌った。下りは大きな斜面をアイゼンを利かせながら肩の小屋まで下り、そこからはスキーとつぼ足で一気に下った。位ヶ原で旧知の田中初四郎さん(岡山から単独で山スキーにやってきた)と出会い、しばし歓談。



14:00無事に下山。両校の伝統を背負いつつ、岳陽山岳部史の新たな幕開けとしての初合宿はこうして成功裏に終わった。

## 編集子のひとごと

12年前から4月の第1週には、日山協主催の山岳スキー大会が褥池で開催され、その第1回目から長山協は運営に協力してきた。2011年の大震災後一回休んだものの、10回続いたこの大会が、諸般の事情から今年は開催することができなかった。参加者はそれほどびななかったが、この大会を楽しみにして毎年参加してくれる選手もおり、同時に長山協内部の仲間づくりにも一役買うというユニークな大会であった。一方で悪天候に泣かされ、なかなか予定通りの大会運営ができないという大会でもあったが、私にとっては苦労した分だけ思い入れも強い大会でもあった。昨年末、日山協の方針でこの大会を主催しないことが伝えられた時には、ちょっと残念な思いがした。

過去10回の大会を振り返ると、毎年あれほど天候に泣かされてきたというのに、皮肉なことに今年の4月第1週はピーカンだった。もし、大会を開催していれば・・・という思いを持ちながらの先日の乗鞍登山であった。(大西 記)